

# ビジョン1 企業が稼げる強靱なまちを支えるみちづくり

## みちづくり の方向性

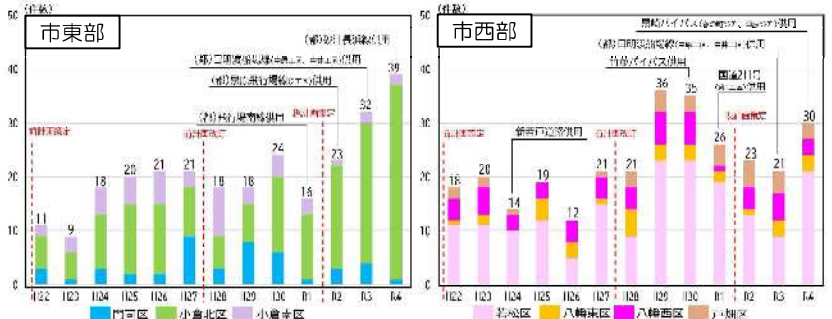
- ①企業活動や物流振興を支えて、稼げるまちを形成する道路ネットワークの整備
- ②バックアップ機能を有する、安定的な物流確保に向けた道路施設の強靱化

これまでの道路整備による主な事業効果

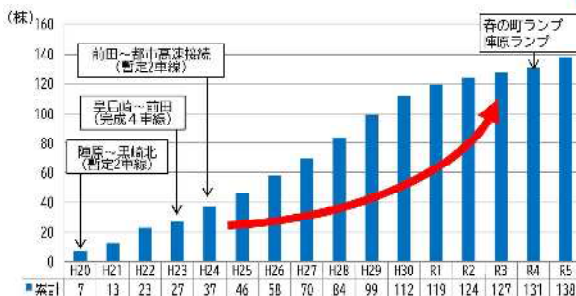
「みちを造って稼げるまちへ」

### ○企業立地の増加

近年、北九州市内で道路整備が進むとともに、主要道路の沿線では、前計画を策定した平成22年度以降、12年間で企業が566件立地しました。



▲北九州市の企業誘致件数の推移



### ○住宅開発の促進

主要道路の沿線では、共同住宅の建築が進んでいます。例えば、国道3号黒崎バイパス沿線では、平成20年度の暫定供用以降、16年間で138件の共同住宅が分譲開始しています。

◀国道3号黒崎バイパス沿線での共同住宅立地状況

### 主な施策：稼げるまちを支える広域道路ネットワークの構築

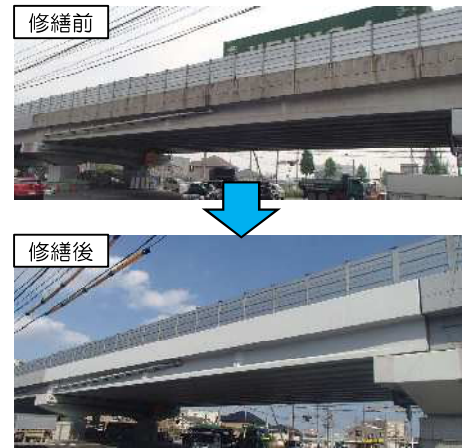
○陸・海・空のネットワークの構築や本州や九州各地域との広域連携を支えるための道路整備を進めます。



▲今後の道路整備箇所図

### 主な施策：橋梁、トンネル、モノレール等の強靱化

○老朽化や大規模地震などに備えて劣化や耐震対策に取り組みます。



▲橋梁の長寿命化対策

- その他の施策 ●北九州市都市圏域の交流・連携を支える道路整備 ●若戸大橋・若戸トンネルの強靱化 <新規>  
●交差点における渋滞対策 ●物流ネットワークの走行性の確保 <新規> ●道路の無電柱化の促進

### ◆効果指標と目標値

効果指標	実績 (R5年度末)	目標値 (R11年度末)
都市計画道路の整備率(総延長:607,360m)	83.5% (507,112m)	85.9% (521,442m)
主要渋滞箇所における渋滞対策の実施済み箇所数 (対象:市管理18箇所)	6箇所	8箇所
橋梁・モノレール長寿命化対策工事の着手率 (対象:R1~R5定期点検で健全性Ⅲに分類された構造物)	橋梁 48% モノレール 11%	橋梁 100% モノレール 100%

## ビジョン 2 人を惹きつけ、若者が集う、彩りある魅力的なみちづくり

### みちづくりの方向性

- ①ウォーカブル（歩いて楽しい）で快適な歩行空間の創出
- ②市の魅力や価値を高める道路整備
- ③市民力を生かした美しいまちづくり

「みちを活かして彩りあるまちへ」

#### 主な施策：魅力的なみちづくり<新規>

- 歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の活用を促進し、にぎわいのある魅力的な道路空間の創出を図ります。
- 道路で休憩できるベンチの設置や、移動販売車両の駐車スペース確保等の道路空間の有効活用に取り組みます。
- 車道の一部空間を転用し、まちなかのウォーカブルな空間を創出します。
- 観光地周辺の道路において、ルート案内を充実させ、観光地までのアクセス性向上に取り組みます



▲ほこみち路線指定の促進



▲移動販売スペースの確保



▲おもてなしベンチ



▲道路空間の再編成（パークレット(大阪市)）

#### 主な施策：こどもまんなかみちづくり<新規>

- ベビーカーが安心して歩くための歩道の段差解消や、主要な駅からバス停等へ乗り継ぐルート上のルーフ整備を進めます。
- 整備箇所については、「北九州市こどもプラン」の取組と連携し、こどもや子育て世帯の意見を聞いた上で決定します。



▲歩道の段差解消  
出典：鳥取県福祉のまちづくり施設整備マニュアル



▲ルーフ整備のイメージ（戸畑駅前広場）

#### 主な施策：防草対策の推進<新規>

- 道路の見通しの確保など、道路環境を常に良好な状態に保つため、市政変革に向けた取組の1つとして除草主体の対策から防草対策への転換を図ります。



中央分離帯の防草対策▶

#### 主な施策：多様な交通モードに配慮したみちづくり

- 公共交通の利用促進や利便性向上を図るため、駅前広場の整備やバス停、タクシーの乗降場の整備等の交通結節機能を強化します。



▲駅前広場の整備（折尾駅南口駅前広場イメージ）

#### 主な施策：市民との協働による美しいまちづくり

- 道路清掃や花植え等を行う団体を対象に、清掃用具や花苗の支給、長期活動団体の表彰等、活動を永く続けられるための制度の充実を図ります。



道路サポーターの活動状況▶

#### その他の施策

- 景観に配慮したみちづくり(北九州風景街道の推進)
- 自転車を快適に利用できる環境づくり
- 環境に配慮したみちづくり(道路照明のLED化など)

#### ◆効果指標と目標値

効果指標	実績 (R5年度末)	目標値 (R11年度末)
自転車通行空間の整備延長	44.7 km	80 km
市内における道路照明のLED化率（全灯数：17,743灯）	90%（15,896灯）	100%（17,743灯）
北九州市道路サポーターの加入団体数	259団体	275団体

裏面へ



# ビジョン3 安らぎのある暮らしを支えるみちづくり

## みちづくりの方向性

- ①通学路の安全対策の更なる強化
- ②安全で快適な歩行空間の整備
- ③維持管理の効率化及び高度化

「人とみちを守って安らぐまちへ」

### 主な施策：通学路の安全対策の強化

- 警察、学校・PTA、自治会等の関係者が連携して市内の全小中学校区の通学路の安全点検を行い、交通安全対策に取り組めます。
- 通学路の安全対策のさらなる強化を図るため、小学校周辺のエリアを選定し、ビッグデータ※を活用して交通安全対策を行います。  
※国土交通省が提供するETC2.0を搭載した車両の速度や通行ルート等のデータ



▲通学路合同点検の様子

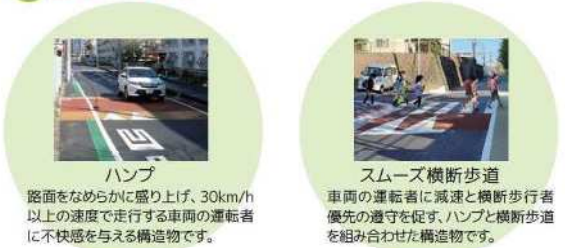
### 主な施策：生活道路の交通安全対策

- 生活道路において、ビッグデータを活用して、速度超過箇所や急ブレーキ箇所等の潜在的な危険箇所を事前に特定し、効果的・効率的な安全対策（速度抑制や通過交通進入抑制対策等）に取り組めます。
- 最高速度30km/hの区域規制「ゾーン30」とハンブ等物理的デバイスの適切な組合せにより交通安全の向上を図る区域を「ゾーン30プラス」として設定し、道路管理者と警察が連携しながら整備を進めます。



▲ビッグデータ活用による危険箇所の特定事例  
出典：国土交通省資料

### 速度抑制対策



**ハンブ**  
路面をなめらかに盛り上げ、30km/h以上の速度で走行する車両の運転者に不快感を与える構造物です。

**スムーズ横断歩道**  
車両の運転者に減速と横断歩行者優先の遵守を促す、ハンブと横断歩道を組み合わせた構造物です。

▲物理的デバイスの例 出典：国土交通省資料

### 主な施策：ICT等を活用した新たな道路の維持管理<新規>

- 新技術(ドローンやAI)を活用し、インフラDXによる維持管理の効率化及び高度化の実現に取り組めます。



▲ドローンによる道路施設の点検



▲市民通報サービス

### その他の施策

- 誰もが安心して利用できるみちづくり(主要駅周辺のバリアフリー化、歩道の新設、拡幅、バリアフリー化など)
- 事故危険箇所の事故防止対策
- 日常生活を支える道路の維持管理

### ◆効果指標と目標値

効果指標	実績 (R5年度末)	目標値 (R11年度末)
通学路の合同点検の実施率(※点検3巡目となる令和7年から5年間を目処に全ての小中学校区を対象に実施)	—	100%
ビッグデータを活用した交通安全対策の着手地区数	9地区	14地区
主要駅周辺の特定道路等のバリアフリー化率(総延長:43,930m)	95%(41,840m)	100%(43,930m)
事故危険箇所における事故防止対策の実施済箇所数(対象:市管理88箇所(第5次指定箇所まで))	85箇所	88箇所